

就職活動経験の有無による 就活に関するメタ認知的知識の 相違についての研究

人間科学部
臨床心理学科
教授
久保田 進也



研究シーズの紹介

メタ認知とは、認知をより上位の観点から捉えたものであり、物事を一段高いところから俯瞰的に見ることを言う。これまで、教育分野を中心に研究がなされてきたが、近年コミュニケーション活動におけるメタ認知が注目されている。メタ認知は知識成分と活動成分に分けられ、メタ認知的知識には、課題についての知識が含まれる。「就活」という課題に関しての知識がそれである。メタ認知的知識が不適切（例：面接で

は目立つことが大事）であったりすると、メタ認知的活動も不適切なもの（例：グループ討議では司会を担当だ）になりやすい。

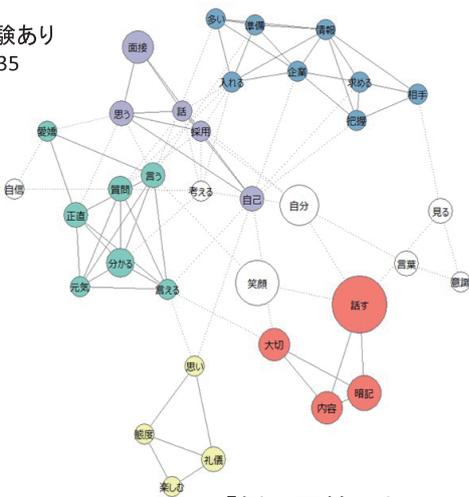
本研究では、就活経験の有無による就活に関するメタ認知的知識を調査し、今後、就活を進める際に必要なメタ認知の方略の構築につなげる。



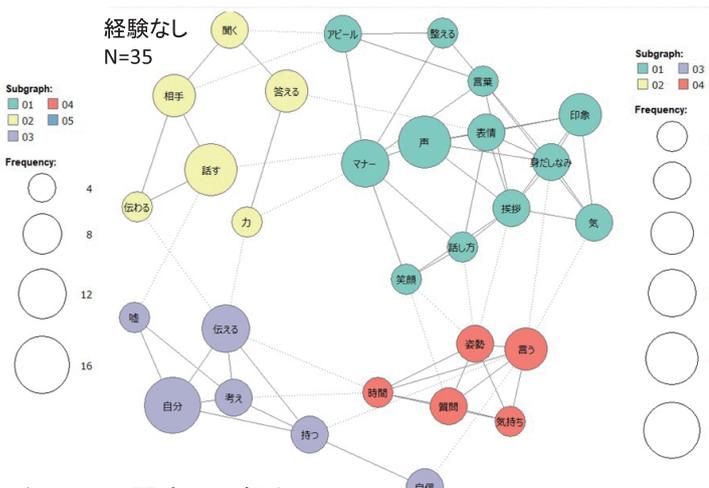
経験の有無と重要視するもの

- 就活経験群は、面接の際、暗記ではなく自分の言葉を大切にします。
- 経験なし群は、身だしなみや表情等どう見られるかを意識。

経験あり
N=35



経験なし
N=35



「採用面接において大切なこと」に関する共起ネットワーク

期待される活用シーン

- 企業側が求めているものと学生側の認識がズレてないか？



就活に必要なメタ認知的知識を整理し学生に提示できる

より適切な就活に関する知識を活用

- 相手側に自分を合わせすぎていないだろうか？



就活を進める際に必要なメタ認知の方略が明らかになる

メタ認知を活かした就活